

平成30年度スポーツ庁委託事業
障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業
「地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の
整備事業」
成果報告書

平成31年4月
愛知県美浜町

1. 実施事業

- (1) 実行委員会の開催
- (2) 地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業の取組
 - (ア) 障害のある人もない人も誰でも参加可能なイベントの開催
 - ①障害のある人もない人も誰でも参加可能なイベントの開催
 - ②冬季町民バドミントン大会（車いす部門の導入）の開催
 - (イ) 障害のある人のスポーツ参加支援マニュアル本（DVD）作成

2. 成果

別紙1 障害のある人もない人も誰でも参加可能なイベントの開催

別紙2 美浜町冬季町民バドミントン大会（車いす部門の導入）の開催

1. 実施事業

(1) 実行委員会の開催

①第1回実行委員会

2018年8月3日に美浜町役場で実施した。実行委員会では、美浜町における障害者スポーツ振興の取り組み、本事業の目的・進め方、名古屋市における障害者スポーツ振興の取り組み等について報告があり、その後意見交換が行われた。

【委員からの主な意見】

- ・美浜町の障害の種別や人数およびニーズをしっかりと把握して障害者スポーツを振興する必要がある。
- ・美浜町にはどのぐらいの障がい者スポーツ指導員がいるのかを把握する必要がある。以前、障害者スポーツのイベント等を考えたが、指導員がおらず開催できなかった経緯があるため。

②第2回実行委員会

2019年2月28日に美浜町役場で実施した。実行委員会では、本事業の報告及び障害者スポーツの振興に関する課題や展望等についての確認・検討を行った。

【委員からの主な意見】

- ・美浜タウンマラソンの反省会において、障害者用の駐車場の確保や対応方法についての意見がでた。マニュアル本の完成後は、このような現場で活用していくことが大切である。
- ・先日行われた、美浜町民バドミントン大会において初めて車いす部門を導入した。とても良い取り組みだと感じた。継続的に開催していくことが重要である。
- ・バドミントン、卓球などは一般の大会に導入しやすいと思う。障害者のルールなどについては、審判講習会を開催してはどうか。
- ・パラスポーツ体験会については、来年度以降も日本福祉大学で学祭の日程に合わせて開催予定である。
- ・美浜町社会福祉協議会では、障害の有無にかかわらず誰もが楽しめる大会などを企画していきたいと考えている。
- ・名古屋市では、小中学校に出向き、パラリンピック教育を行っている。長期的に進めていく方針だ。
- ・車いすバスケットボールを行う環境も日本福祉大学にはあるので車いすバスケットボールも何か開催してほしい。町民と一緒に交流大会をしてはどうか。
- ・本事業をきっかけにさまざまな障害者スポーツの振興ができると思う。2026年には、愛知県でアジア競技大会が開催されるため、しっかりとビジョンを持って進めていくことが重要である。

- ・ 障害者スポーツに対応できれば、高齢者やスポーツの苦手な子どもたちにも対応できることにもなると思う。
- ・ 理学療法士は、現場で障害者と接点がある。環境整備が進むと障害者のスポーツが広がると思う。
- ・ 昨年度、日本財団パラリンピックサポートセンターに依頼し「あすチャレ！スクール」を実施した。子どもたちの反応はとても良かった。
- ・ 美浜町内の小中学校の体育館にはスロープがないなど課題は多い。今後の検討課題としたい。
- ・ 美浜町は、美浜町障害者福祉計画を策定し、事業を進めているところである。その中には、スポーツ・レクリエーション活動の推進がある。福祉課と生涯学習課で連携して進めていく。
- ・ 美浜町には 6 箇所の保育所があり、障害のある子どもが数名通っている。保育士は手探りで対応している状況であるが、共有しながら進めていきたい。
- ・ 大学などで、障害者スポーツを観戦できる機会があればいいと思う。

（２）地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業の取組

（ア）障害のある人もない人も誰でも参加可能なイベントの開催

①障害のある人もない人も誰でも参加可能なイベントの開催（別紙 1 参照）

【実施内容】

2018 年 11 月 3 日、日本福祉大学において、障害者のみならず、子どもから高齢者まで誰もが参加できるスポーツイベント「パラスポーツ体験会」を開催した。開催日は、日本福祉大学の福祉大学祭の日とした。

運営は、美浜町、日本福祉大学の学生、みはまスポーツクラブ、スポーツ推進委員等が連携して行った。実施の際は、障害のある人となない人が一緒に楽しむことができるようルール等を工夫して行った。

②美浜町冬季町民バドミントン大会（車いす部門の導入）の開催（別紙 2 参照）

2019 年 2 月 17 日、美浜町及び美浜町体育協会が年に 3 回実施している「美浜町民バドミントン大会」に初めて車いす部門を設けた。大会当日は、12 名の障害のある選手が参加した。

障害の有無にかかわらず誰もが参加できる交流大会や、障害者スポーツ大会は実施されているものの、以前から行われている一般の競技別スポーツ大会に車いす部門を設けて実施する取り組みはほとんどみられない。

今回の取り組みは、中日新聞（2019 年 2 月 26 日朝刊）にて取り上げられた。

（イ）障害のある人のスポーツ参加支援マニュアル本（DVD）作成

- ・ 障害のある人の意見や専門家の意見等を取り入れ、障害のある人への配慮を工夫したスポーツ施設利用マニュアル（DVD）作成した。

【実施内容】

スポーツ施設において、障害のある人や支援が必要な人に対し、どのように対応しサポートが必要かを分かりやすく解説したマニュアル本（DVD）を作成した。

タイトル：障害のある人への配慮を工夫したスポーツ施設利用マニュアル

主な内容：はじめに「障害のある人とスポーツ」

第1章「障害の分類と概要」

第2章「施設利用時の配慮とポイント」

第3章「誰もが楽しめる障害者スポーツの紹介」

2. 成果

美浜町は、障害のある人もない人もすべての人がスポーツに親しむことができる町づくりを推進する『美浜町スポーツ推進計画』の策定を進めているところである。今回の実行委員会をきっかけに、関係団体との連携体制を構築し、障害者スポーツの振興を図ることとした。

具体的には、美浜町スポーツ推進計画に障害者スポーツの振興を明記することや、スポーツ推進委員・総合型地域スポーツクラブに対して本事業で作成したマニュアル本を活用した講習会を開催する予定である。マニュアル本（DVD）は、関係者のみならず、町民をはじめ多くの人々に見ていただけるよう美浜町のホームページにも公開する予定である。

さらに、障害のある人もない人も誰でも参加可能なイベントの開催や競技別スポーツ大会への車いす部門の導入など、身近な地域において障害のある人がスポーツに親しむことができる環境を整備していく。

障害のある人もない人も誰でも参加可能なイベントの開催		
1.事業概要	日程	2018 年 11 月 3 日(土)
	会場	日本福祉大学スポーツ科学部棟SALTO
	主催	美浜町生涯学習課、日本福祉大学スポーツ科学部実行委員会
	協力	日本福祉大学スポーツ科学部 みはまスポーツクラブ
	参加対象	障害の有無にかかわらず誰でも参加可能
2.事業の目的	障害者のみならず、子どもから高齢者まで誰もが参加できるスポーツを行うことにより、地域における継続的な障害者スポーツの実施につなげる。	
3.参加者	参加人数 360 名 （うち、協力人数 60 名）	
4.事業実施の様子	 ゴールボール  パラバドミントン  フライングディスク  車いすバスケットボール  ボッチャ  体力測定	



反応速度



ダーツ



パラリンピック紹介



ストラックアウト



福祉ネイル



会場の様子



集合写真

5.振り返りと今後の課題	障がい者スポーツ指導員（初級・中級）を目指す学生を含む、スポーツ科学部の学生が中心となり、パラスポーツ体験会を企画・運営した。また、当日は、みはまスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ）のスタッフや各パラスポーツ競技の選手と一緒に運営を行った。 障害のある人も含む、子どもから高齢者まで多くの人にパラスポーツを体験していただく機会となった。さらに、参加者にビンゴカードを配り、すべて体験すると参加賞がもらえる企画を設けたことで、さまざまなパラスポーツを体験していただくことができた。 課題としては、近隣の小学校や障害者福祉施設など、さらに多くの人に参加していただけるよう周知・広報の方法を工夫したい。
---------------------	--

美浜町冬季町民バドミントン大会(車いす部門の導入)		
1.事業概要	日程	2019 年 2 月 17 日(日)
	会場	美浜町総合公園体育館
	主催	美浜町体育協会、美浜町体育協会バドミントン部
	協力	日本福祉大学バドミントン部
2.事業の目的	バドミントンを通して体力の向上と親睦を図り、健康な町づくりに寄与する	
3.参加者	参加人数 146 名 (うち、障害者 12 名)	
4.大会の様子	  	
5.振り返りと今後の課題	美浜町で行われている町民バドミントン大会は、年に 3 回実施されている。今回、初めて「車いす部門」を設けた。また、空いた時間には、車いすバドミントンの体験コーナーを設け、参加者に体験していただいた。 車いす部門の設置にあたっては、日本福祉大学のバドミントン部の練習に参加している車いすの選手から、「車いすのバドミントン大会が少ない」という意見があり、美浜町及び美浜町体育協会へ相談したことがきっかけとなった。 全国各地において、障害者との交流大会や各種目による障害者スポーツ大会は年に数回実施されているが、一般の大会に車いすの部門を設ける取り組みは例がない。 本大会は、地域で活動するクラブや大学で運営されており、大会後に車いす選手らが各クラブの練習に参加するきっかけになることや障害理解にもつながっていくと考えられる。 今後は、近隣の学校や障害のある人への周知をし、車いす部門の設置を継続していく。	

本報告書は、スポーツ庁の障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業として、愛知県美浜町が実施した「平成 30 年度障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。